

部課名		文化スポーツ振興部文化振興課											
課の使命		誰もが文化芸術に親しむことができるよう、市民の文化芸術活動の振興や、魅力ある文化芸術とふれあえる環境づくりに取り組みます。そのための環境整備、鑑賞機会の創出、活動支援、情報発信を行います。											
実行計画(年度目標)													
順位	取組項目	計画 類型	年度目標設定			中間確認			年度末確認				
			具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	成果	評価	評価の視点	課題と対応
1	町田市文化プログラムの推進	重点 事業 プラン	<ul style="list-style-type: none"> オンラインを活用した周知を積極的に行い、市民等の町田市文化プログラムへの参画を促します。 市民との協働による町田市文化プログラムを実施します。 町田市文化プログラムの実施期間終了後、成果の検証を行います。 	文化プログラム 認証	190件認証(累計)	○	<ul style="list-style-type: none"> 2020年度から引き続き、インターネットを活用したオンライン企画の実施や、Instagramを活用した周知を行いました。 17件を認証し、2018年度から延べ200件の取組を認証しました。 	<p>これまでの培った広報活動のノウハウや、市内のアーティストや大学等とのつながりを活かした取組を今後も継続していくよう、その方向性について検証します。</p>	<p>2020年度から引き続き、インターネットを活用したオンライン企画の実施や、Instagramを活用した周知を行いました。17件を認証し、2018年度から延べ200件の取組を認証しました。9月には、芹ヶ谷公園にて、市内大学と町田市ゆかりのアーティストによる、ライトアップコンサートを開催しました。今までの成果・課題を検証し、報告書にまとめました。</p>	200件認証 (累計)	C	C:目標水準を達成したためです。	報告書でまとめた内容をもとに、町田市文化プログラムで培った広報活動のノウハウや、市内アーティスト等とのつながりを活かした取り組みをレガシーとして実施していきます。
2	(仮称)町田市文化芸術のまちづくり基本計画の策定	—	<ul style="list-style-type: none"> 2024年度からを計画期間とする基本計画の策定に向けて、先進自治体や文化芸術活動主体等へのヒアリングを行い、策定の体制・手法を検討します。 	体制・手法に関する検討の進捗 状況	体制・手法の決定	○	<p>下半期に実施するヒアリングの実施に向けて、近隣自治体の策定状況等の内容を調査しました。</p>	<p>先進自治体や文化芸術活動主体等へのヒアリングを行い、策定の体制・手法を決定します。</p>	<p>多摩26市を対象に、文化芸術関連基本計画の策定状況や策定の体制・手法に関するアンケート調査及び電話によるヒアリングを実施しました。また、調査結果やこれまでの検討を踏まえて、策定の体制・手法等を決定しました。</p>	体制・手法 の決定	C	C:目標水準を達成したためです。	今後予定している計画策定のための組織の発足・運営及び文化団体等を対象とした調査の実施に向けて、準備を計画的に進めていきます。

順位	年度目標設定				中間確認			年度末確認					
	取組項目	計画 類型	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	成果	評価	評価の視点	課題と対応
3	町田市がもつ工芸作品のPR	—	多くの市民が町田市がもつ工芸作品に触れられる機会を設けるため、イベントや館外展示を行います。イベントや展示は、将来の「パークミュージアム」の姿を伝えることや、市内の事業者や団体との連携の視点を重視して企画します。また、コロナ禍においても、工芸品を「使う」要素を含む企画をさらに検討します。	①イベント回数 ②参加者数	①46回39回 ※新型コロナウイルス感染症の影響により、イベントが中止になったことなどにより修正しました。 ②21,119人24,181人 ※イベントスケジュールが変更になったことにより目標値を修正しました。	○	町田の土で器を作り芹ヶ谷公園で焼き上げる親子体験講座など、体験講座を25回行い、308人が参加しました。	町田市和菓子組合と連携した展示や、日常で使う工芸の魅力をPRする展示や市民団体と連携した体験講座を行います。	開催したイベントは、体験講座34回、館外展示5回、合計39回でした。参加者数は、体験講座480人、館外展示40,726人、合計41,206人でした。体験講座では、将来の「パークミュージアム」の姿をイメージできる新たな企画として、芹ヶ谷公園で焼成するやきもの体験講座を開催しました。館外展示では、町田菓子組合の協力を得て実施した展示や、ボヘミアン・グラス展の案内はがきデザインや学生コンペ等を通して市内の団体との連携を深め、工芸作品の周知にもつなげることができました。	①39回 ②41,206人	B	B: 当初の目標を上回る成果が上がったためです。	(仮称)国際工芸美術館開館に向けた気運醸成のため、市内団体との新たな連携による事業を企画します。また、市民が工芸作品に接し「パークミュージアム」への期待が高まるような展示や講座を企画します。
4	時間外勤務削減に向けた課内共有	—	・四半期ごとに時間外勤務削減のための課内共有の場を設け、業務状況の把握と見直しを行い、削減に努めます。 ・担当間の業務共有をしながら、時間外勤務の平準化を図り、新組織での体制を整えます。	時間外勤務削減に向けた課内共有の場の設定	4回	○	6月と9月の計2回、時間外勤務時間数の状況を課内で共有し、削減するよう努めました。係長会議を開催し、業務の平準化に向け業務分担の見直しを行いました。	引き続き、課内で情報共有を図り、時間外勤務時間数の削減に向けた取組を継続します。	四半期に1回、年間で4回時間外勤務時間数の状況を課内で共有しました。状況に応じて担当業務の分担を検討するなどにより時間外の削減に向け取り組みました。	4回	C	C: 目標水準を達成したためです。	突発的な業務が発生することから、今後も、課内で情報を共有し、実態に合わせて業務分担を調整していきます。

部課名		文化スポーツ振興部文化振興課パークミュージアム担当											
課の使命		町田市中心市街地に隣接する緑豊かな都市公園である芹ヶ谷公園と(仮称)国際工芸美術館・国際版画美術館を一体的に整備するプロジェクト「芹ヶ谷公園芸術の杜プロジェクト パークミュージアム」によって、まちに新たな賑わいと交流を生みだすとともに、町田市全体の魅力向上、ブランド価値の向上を目指します。											
実行計画(年度目標)													
年度目標設定													
順位	取組項目	計画 類型	具体的な活動内容	指標	目標値	中間確認			年度末確認				
						進捗 状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	成果	評価	評価の視点	課題と対応
1	芹ヶ谷公園”芸術の杜”パークミュージアム「美術エリア」の整備	未来 づくり プロ ジェ クト	(仮称)国際工芸美術館については、実施設計を完了させます。また、(仮称)国際工芸美術館の開館時には(仮称)公園案内棟／喫茶／工房・アート体験棟が完成し、切れ目なく体験工房が利用できるよう(仮称)公園案内棟／喫茶／工房・アート体験棟の基本計画策定を行います。	①②芹ヶ谷公園”芸術の杜”パークミュージアム「美術エリア」整備の進捗状況	①(仮称)国際工芸美術館実施設計完了 ②(仮称)公園案内棟／喫茶／工房・アート体験棟基本計画策定	○	①地域の方々とお話をしながら、国際版画美術館や公園との回遊性を踏まえ、設計を進めました。 ②将来の公園の姿を念頭に置きながら、想定する施設の機能について整理・検討を行い、工房・アトリエ利用者と意見交換を行いました。	①引き続き地域の方々とお話をしながら、設計の完了に向け、実施設計を行います。 ②引き続き工房・アトリエの利用者や版画・工芸・教育普及の有識者、公園を利用する親子などの意見交換を行いながら、基本計画を策定します。また、市民にとってわかりやすい施設名称を検討します。	①地域の方々とお話を重ねながら設計を進めてきましたが、いただいた意見をより反映させるため設計を一時中断したことにより、完了には至りませんでした。 ②地域の方々はもちろん、版画工房・アトリエの利用者や版画・工芸・教育普及の有識者、公園を利用する親子などの意見を聞き取り、丁寧な検討を進め、基本計画(素案)をとりまとめました。	①実施設計の実施 ②基本計画(素案)の作成	D	D:取り組みましたが、成果が不十分であるためです。	①地域の方々とお話を続けながら、実施設計を完了します。 ②様々な意見をいただきながら基本計画を策定します。その実現に向けて基本設計に着手します。市民にとってわかりやすい施設名称を検討します。
2	芹ヶ谷公園”芸術の杜”パークミュージアム実現に向けた機運醸成の取組み	未来 づくり プロ ジェ クト	芹ヶ谷公園がパークミュージアムとして町田の多様な文化芸術活動の拠点となり、より多くの人に愛される公園となるように育て、盛り上げていくための取組みを進めます。	イベント実施時の満足度	80%	○	・8月16日に、芹ヶ谷公園のファンを増やすオンラインイベント「パークミュージアムラボ(みんなで作る活動のコミュニティ)」を実施し、約60人の参加がありました。 ・また、9月23日、25日、26日の3日間に、「みんなが想像する芹ヶ谷公園の将来の風景」の取組みとして、市内大学や事業者と連携し、ライトアップコンサートや、屋外アート展示、工芸体験(ガラス吹き・陶器焼成)等を実施しました。	・10月には、取組みに興味関心がある方からのアイデア(クラフトワークショップ、環境啓発、ダンス等)を実現する企画を実施予定です。 ・11月には、市民と一緒にあって、公園とまちなかの連携を意識させた宝探しイベントや、園内での絵画展示など「パークミュージアム」の実現に向けた取組みを実施予定です。	「パークミュージアム」の将来の姿をイメージできるような取組みとして、宝探しイベントのほか、油絵や動物の絵の展示会、大学と連携したワークショップ、やきもの・ガラス体験講座等を実施し、多くの方にご参加いただきました。ご協力いただいた地域の方々や観光コンベンション協会の満足度も高く、庁内関係部署からも連携により、来館者の裾野を広げることができたなどの声が寄せられました。	100%	B	B:当初の目標を上回る成果が上がったためです。	地域の方々等との連携を強め、関係を構築していくことで、将来「パークミュージアム」として多くの方に愛される公園となるよう、継続して進めていきます。

順位	年度目標設定					中間確認			年度末確認				
	取組項目	計画 類型	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	成果	評価	評価の視点	課題と対応
3	適正な組織体制づくり	—	定期的に担当間の業務状況の共有と確認を行うことで、時間外勤務時間の縮減につながるよう、新組織としての体制を構築します。	課内共有の場の設定	4回	○	新組織としての業務推進にあたり、4月には業務内容の整理と割り振りを行い、8月には担当業務の平準化のための情報共有を全員で行いました。また、担当間の業務状況を随時共有しました。	引き続き、課内で情報共有をするなかで、業務の平準化を図り、時間外勤務時間の縮減につながるよう体制構築をします。	業務内容の整理や割り振り、担当業務の平準化のための情報共有を都度行い、新組織としての業務体制の構築を行いました。	4回	C	C:目標水準を達成したためです。	引き続き、課内で情報共有をするなかで、時間外勤務時間数の平準化及び削減が図れるよう取組みます。

部課名		文化スポーツ振興部スポーツ振興課											
課の使命		スポーツをする場所や機会を提供するとともに、スポーツ支援活動を支えることで、市民の健康で明るく豊かな生活を実現します。また、身近な生活の中でトップレベルのスポーツ等に親しむことができる環境を整え、活力ある社会を構築します。											
実行計画(年度目標)													
順位	取組項目	計画 類型	年度目標設定			中間確認			年度末確認				
			具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	成果	評価	評価の視点	課題と対応
1	子どもと高齢者の体力向上の推進	重点 事業 プラン	子どもの体力低下対策や、高齢化社会における健康寿命延伸のため、多世代に対してアプローチできる地域スポーツクラブ等が主体となって各種スポーツ教室を実施します。	教室事業の参加者数 ①子ども対象 ②高齢者対象	④40,000人 ③30,000人 ①20,000人 ②18,000人 ※新型コロナウイルス感染症の影響により、施設の利用者数を制限しているため、修正しました。	△	新型コロナウイルス感染症の影響により、施設の利用制限等がある中、感染拡大防止対策を徹底したうえで指定管理者の公開指導や教室事業等を実施したことにより、 ①は合計9,076人、②は合計8,578人が参加しました。	引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を徹底したうえで、教室事業を実施していきます。 また、教室に参加できない方に向けて、ホームページやチラシで自宅で行える運動の紹介を行い、スポーツに関わる機会の提供を行います。	①子どもや親子を対象とした「まちとも」や「わくわくりズム運動」等を実施し、合計25,000人が参加しました。 ②高齢者を対象とした「室内で無理なく簡単にできる！ストレッチ&トレーニング講座」や「運動経験を問わない体ほぐし教室」等を実施し、合計18,000人が参加しました。 感染拡大防止対策を十分に講じたうえで、教室を順次再開しました。また、ホームページにて、自宅で行える運動動画等を10本公開し、合計で1,500回再生され、教室に参加できない市民の方に向けて、運動機会を提供しました。	①25,000人 ②18,000人	B	B:当初の目標を上回る成果が上がったためです。	新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策を十分に講じたうえで、今後も市民に身近な場所での事業実施を行うほか、運動動画の配信やチラシの配布を行います。
2	スポーツをする場の環境整備	重点 事業 プラン	市民の誰もがスポーツに親しめる環境を創出するため、学校跡地や予定地、高架下、雨水調整池等を、スポーツ利用ができるように整備し、効率的・効果的な管理運営を行います。	施設整備数	1施設(累計3施設)	○	7月に(仮称)成瀬鞍掛スポーツ施設整備工事説明会を開催し、計画どおり工事を進めています。	2022年3月の整備完了に向けて工事を進めます。	3月に(仮称)成瀬鞍掛スポーツ施設整備工事が完了し、4月から成瀬鞍掛グラウンドを利用できる準備が整いました。	1施設(累計3施設)	C	C:目標水準を達成したためです。	成瀬鞍掛グラウンド(うさぎ谷戸公園内)は、4月から市民利用を開始します。

順位	年度目標設定					中間確認			年度末確認				
	取組項目	計画 類型	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	成果	評価	評価の視点	課題と対応
3	大学・企業連携の推進	個別 計画	大学や企業との連携により、各団体が所有するスポーツ施設を広く市民が利用できるようにします。また、学生や民間企業が地域で活動する環境を整えます。	大学・企業との連携数	2団体(累計7団体)	○	協定の締結に向けて調整中の2団体と打合せを行いました。加えて、新たに1団体と協定の締結に向けた打合せを開始しました。なお、すでに協定締結済の5団体については、新型コロナウイルス感染症の影響により、各団体において敷地内への立ち入り制限があり、いずれも事業の実施が困難な状況でした。	引き続き、協定の締結に向け、3団体と調整を行います。また、すでに協定締結済の団体については、敷地内への立ち入り制限の緩和等、状況の変化にあわせ、事業の実施、再開に向けた調整を行います。	協定締結に向け調整していた団体の内、2団体と、市と締結している包括協定に基づき、指導者派遣等のスポーツに関する連携事業実施にご協力いただけるようになりました。また、すでに協定締結済の団体については、敷地内への立ち入り制限の緩和等、状況の変化にあわせ、事業の実施、再開に向けた調整を行いました。	2団体 (累計7団体)	C	C:目標水準を達成したためです。	新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえながら、引き続き、各団体に対し、スポーツ事業に関する協定締結、連携事業実施、再開のため、積極的に働きかけていきます。
4	トップアスリートとの交流の活性化	個別 計画	トップアスリートとの交流機会を創出します。	トップアスリートとの交流機会の回数	年7回	△	新型コロナウイルス感染症の影響により、アスリートとの交流が困難となり、上半期の目標であった2回の交流事業を実施することはできませんでしたが、代替事業の検討を行い、下半期に7回の事業が実施できるよう調整を進めました。	新型コロナウイルス感染症の状況を見据えながら、7回の事業の実施に向け、継続して調整を進めていきます。	新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策を十分に講じ、当初の目標を上回る8回の事業を実施することができました。	年8回	C	C:目標水準を達成したためです。	新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策を十分に講じたうえで、引き続き事業を実施していきます。

順位	年度目標設定					中間確認			年度末確認				
	取組項目	計画 類型	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	成果	評価	評価の視点	課題と対応
5	ホームタウンチームの支援	重点 事業 プラン	ホームタウンチームに関連する試合や、ホームタウンチームから選手が選出された代表戦等の情報を発信し、ホームタウンチームの認知度と観戦者数の向上を図ります。	ホームタウンチームに関連する試合の観戦者数	170,000人 63,000人 ※新型コロナウイルス感染症の影響により、入場者数の制限等が設けられているため、修正しました。	△	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、各リーグは無観客や入場者数の制限などの対策を講じている中、ホームタウンチームに関する情報をPRした結果、観戦者数はFC町田ゼルビア15試合で32,381人、ASVペスカドーラ町田4試合で4,313人、合計で36,694人でした。	ホームタウンチームに関連する情報を継続してPRし、観戦者の増加を目指します。また、ホームタウンチームと連携し、地域貢献活動や、体験会等を継続して実施できるように調整していきます。	新型コロナウイルス感染症の影響により、各リーグとも制限付き開催となりました。FC町田ゼルビア21試合で計54,128人、ASVペスカドーラ町田11試合で計10,198人で合計64,326人が観戦し、目標値を達成しました。	64,326人	C	C:目標水準を達成したためです。	ホームタウンチームに関連する情報を継続してPRし、更なる観戦者の増加を目指します。また、ホームタウンチームと連携し、地域貢献活動や、体験会等を継続して実施できるように調整していきます。
6	ワークライフバランスの実現	—	業務分担の平準化や、業務の効率化、職員間の情報共有・連携の強化に努め、年次有給休暇の取得しやすい職場風土を醸成します。	年次有給休暇取得日数	14日以上/人	○	新型コロナウイルス関連業務に関する兼務発令に伴い、職員1人あたりの業務量が増加しましたが、特定の職員へ業務が集中しないよう、職員間の情報共有を図り、業務分担の平準化に努めました。その結果、当初計画していた職員一人当たりの休暇取得日数(上半期4.6日※夏期休暇5日を除く)を上回る、5.7日を取得しました。	引き続き、特定の職員へ業務が集中しないよう、業務の効率化に努めるとともに、定期的な打ち合わせを行うなど職員間の情報共有を図り、計画的な休暇取得に努めます。	ビジネスチャット等を活用した情報共有の活性化や業務分担の平準化および業務効率化を図り、職員1人あたりの年次有給休暇取得日数は、13日となりました。	13日/人	C	C:目標水準を達成したためです。	オリンピック・パラリンピック等国際大会推進課の業務の引継ぎに伴い、業務量の増加が想定されます。引き続き、業務の効率化や職員間の情報共有・連携の強化等に努め、ワークライフバランスの実現を目指します。

部課名		文化スポーツ振興部オリンピック・パラリンピック等国際大会推進課											
課の使命		東京2020オリンピック・パラリンピックの開催を契機に、子どもたちに夢を与え、文化、スポーツ、経済、観光などの多分野の振興と町田市全体の魅力の向上を図っていきます。											
実行計画(年度目標)													
		年度目標設定				中間確認			年度末確認				
順位	取組項目	計画	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	成果	評価	評価の視点	課題と対応
1	東京2020オリンピック・パラリンピック事前キャンプ受入れ	重点事業プラン	大会直前に海外代表チームの事前キャンプを受け入れるとともに、市民交流イベントを実施します。実施にあたっては、国の示す新型コロナウイルス感染対策のガイドラインに基づき、受入れマニュアルを整備します。	①事前キャンプ受入れ数 ②市民交流イベント数	①15競技 ②15回 ※4月に南アフリカオリンピック委員会、インドネシアバドミントン協会、インドネシア空手道連盟から、5月に中国オリンピック委員会から事前キャンプ中止の申し出があったため、修正しました。	○	8月19日から8月26日にインドネシアパラバドミントン代表の事前キャンプ受入れを行い、期間中に5回の市民交流イベント(公開練習4回、オンラインイベント1回)を実施しました。実施にあたっては、国の示す新型コロナウイルス感染対策のガイドラインに基づいて作成した受入れマニュアルの内容を遵守し、選手・関係者から新型コロナウイルス陽性者が発生することなく無事に事前キャンプを終えることができました。	これまでの事前キャンプ招致・受入れで培ってきたインドネシアとの関係性を大会レガシーとして継承し、2022年度以降も来日時に市民交流等ができるよう、関係団体等と調整を進めます。	インドネシアパラバドミントン代表の事前キャンプは、選手団のパラリンピックでの活躍(金銀銅メダル各2個獲得)につながり、選手団のみならずインドネシアパラリンピック委員会やインドネシア大使館からも多くの感謝の言葉をいただきました。キャンプ期間中は新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、事前予約制の導入やオンライン配信ツールの活用等の工夫を凝らして、目標値を上回る5回の交流イベントを実施しました。また、今後のインドネシアとの関係性の継承に向け、関係団体等との連絡調整を行いました。	①1競技 ②5回	B	B:当初の目標を上回る成果が上がったためです。 これまでの事前キャンプ招致・受入れで培ってきたインドネシアとの関係性を大会レガシーとして継承していく必要があります。2022年度以降も来日時に市民交流等ができるよう、関係団体等と調整を進めます。	

順位	年度目標設定					中間確認			年度末確認				
	取組項目	計画	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	成果	評価	評価の視点	課題と対応
2	東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた気運醸成	重点事業プラン	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染対策を講じながらイベントの実施に加え、SNS・オンライン配信なども活用し、様々な機会を捉えて気運醸成に取り組みます。 大会開催中はコミュニティライブサイトやパブリックビューイングを開催します。 	<ul style="list-style-type: none"> ①イベント数 ②コミュニティライブサイト等の観客動員数 	<ul style="list-style-type: none"> ①16イベント ②10,000人 	○	<p>①新型コロナウイルス感染症の影響で13イベントを中止しましたが、感染症対策を講じながら東京2020公式アートポスターの展示など9イベント実施しました。</p> <p>②IOC(国際オリンピック委員会)・IPC(国際パラリンピック委員会)・組織委員会・東京都・国による5者協議の要請に基づき、コミュニティライブサイト及び市庁舎でのパブリックビューイングは中止しました。男子マラソンに出場した大迫選手の出身校である金井中学校で関係者限りのパブリックビューイングを開催し、生徒など21人が参加しました。</p>	大会によって高まったスポーツへの関心をレガシーとして継承するため、大会ゆかりの場所への銘板設置や大会報告書の作成を行うことに加え、引き続き町田市ゆかりのアスリート情報の発信を行います。	<p>新型コロナウイルス感染症の影響で、大会期間中に予定していたコミュニティライブサイトを含む13イベントを中止しましたが、感染症対策を徹底して、大迫選手の応援イベントや東京2020公式アートポスターの展示など9イベントを実施しました。</p> <p>また、東京2020大会により高まったスポーツへの関心を継続させるため、大会後も町田市ゆかりのアスリートの活躍等を5つのイベントやSNS等で紹介し、北京オリンピックに出場した富高選手を応援する懸垂幕の掲出や、東京2020大会ゆかりの地である多摩境駅前と町田シバヒロへの銘板の設置を実施しました。</p>	①14イベント ②-	C	C:目標水準を達成したためです。	東京2020オリンピック・パラリンピックの開催を契機として高まったスポーツへの関心を継続させるため、引き続き町田市ゆかりのアスリートやホームタウンチームに関する発信に取り組みます。

順位	年度目標設定					中間確認			年度末確認				
	取組項目	計画	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	成果	評価	評価の視点	課題と対応
3	聖火リレーの実施	—	<ul style="list-style-type: none"> ・地域説明会やPRチラシ等により広く開催を周知するとともに、新型コロナウイルス感染対策を講じることで、多くの市民が安全に安心して楽しむことができるよう、オリンピック聖火リレーを実施します。 ・多くの市民に参加いただけるような形でパラリンピック聖火を採火・展示するイベントを実施します。 	<ul style="list-style-type: none"> ①オリンピック聖火リレーの観覧者数 ②パラリンピック聖火イベントの参加者数 	<ul style="list-style-type: none"> ①25,000人 ②500人 	○	<ul style="list-style-type: none"> ①オリンピック聖火リレーの公道実施が中止となり、点火セレモニーの入場は関係者163人のみとなりましたが、自宅からインターネット配信映像を楽しんでもらえるようホームページやTwitterで周知しました。 ②種火づくりやメッセージカードの作成による「まちだの火」の作成に計17の障がい者・子ども関連施設の利用者570人が参加しました。採火式典は関係者のみの無観客で実施しましたが、式典の様子はオンラインで中継しました。 	<ul style="list-style-type: none"> 聖火トーチの展示を行う等、公道実施中止により観覧が叶わなかった市民等が聖火リレーを楽しめる機会を設けます。 	<ul style="list-style-type: none"> 公道実施中止によりオリンピック聖火リレーを市民に直接観覧してもらうことは叶いませんでしたが、東京都やNHKのライブストリーミングやパラリンピック聖火の採火を通して、多くの方に聖火リレーを楽しんでもらうことができました。 大会終了後には、採火に参加した障がい者・子ども関連施設10施設や市立小学校11校、子どもマラソン等のイベント、市庁舎のイベントスタジオ等で聖火トーチを展示し、一般の市民にも聖火トーチを間近で見たり、手に取って重さ等を体感してもらうことができました。 	<ul style="list-style-type: none"> ①— ②570人 	C	C:目標水準を達成したためです。	<ul style="list-style-type: none"> 東京2020オリンピック・パラリンピックの開催を契機として高まったスポーツへの関心を継続させるため、市立総合体育館で聖火トーチの常設展示を行います。

順位	年度目標設定					中間確認			年度末確認				
	取組項目	計画	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	成果	評価	評価の視点	課題と対応
4	東京2020オリンピック自転車競技ロードレースの実施	—	地域説明会やPRチラシ等により広く開催を周知するとともに、新型コロナウイルス感染対策を講じることで、多くの市民が安全に安心して楽しむことができるよう、オリンピック自転車競技ロードレースを実施します。	オリンピック自転車競技ロードレースの観戦者数	15,000人	○	オリンピック自転車競技ロードレースについては、組織委員会から沿道観戦の自粛の方針が出されたため、自宅でのインターネット配信映像による観戦を広報・ホームページ・近隣自治会等を通じて周知しました。競技当日は延べ397人のまちだサポーターズが活動し、沿道へのコーンやバーの設置や沿道に集まった方への案内等を行い、安全に競技を運営しました。	自転車競技ロードレースで得られた課題を整理し、2022年度以降の大規模大会運営に活用できるように検討します。	組織委員会から沿道観戦自粛の方針が出されたため、観戦者数の測定は行いませんでした。沿道観戦に代えて自宅でのインターネット配信映像による観戦を広く周知したほか、競技当日はボランティアや応援職員が沿道に集まった方への案内等を行い、安全に競技を運営しました。競技開催後、従事したボランティア等の意見を集約し、今後の大規模大会運営に活用できるように振り返りを行いました。	—	C	C:目標水準を達成したためです。	オリンピック自転車ロードレースが開催された自治体は都内では町田市を含めて8市のみであり、その強みを活かした取り組みが求められています。全市的な自転車活用推進の取り組みの中で、スポーツ・観光や地域活性化の資源として活かせるよう検討します。

順位	年度目標設定					中間確認			年度末確認				
	取組項目	計画	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	成果	評価	評価の視点	課題と対応
5	まちだサポーターズ活動支援	個別計画	スポーツを”支える”人材を育成するため、市民ボランティア「まちだサポーターズ」が活躍できる環境を整え、支援します。	①「まちだサポーターズ」年間延べ活動人数 ②「まちだサポーターズ」研修回数	①3,000人 ②3回	○	①緊急事態宣言等の影響により一部のイベントが中止・規模縮小となった一方で、ワクチン集団接種訓練等のコロナ禍における新たなボランティア需要もあり、延べ1,230人が活動しました。 ②5月にオンラインで新人研修会を開催し、13人が参加しました。また、9月に東京2020オリンピック・パラリンピックでの活動を振り返る会を開催し、参加した58人が組織委員会職員や大会ボランティアの講演等を通し、ボランティア活動についての見識を深めました。	①引き続き、各団体に「まちだサポーターズ」が活躍できるイベント等の実施について積極的に呼びかけを行います。 ②11月、2月に新人研修会を開催します。感染拡大状況に応じてオンラインでの実施も検討します。	①新型コロナウイルス感染症の影響でイベントの中止が相次ぎ、延べ約1,000人の活動がなくなりましたが、延べ2,368人が活動をしました。11月には設立総会を開催して定款等を制定し、会員たちが事務局との協働のなかで活動の改善や充実に向けて自ら意思決定できる団体となるための大きな一歩を踏み出すことができました。 ②緊急事態宣言中はオンラインも活用し、5月、11月、2月に新人研修会を計3回実施しました。9月には東京2020オリンピック・パラリンピックでの活動を振り返り、ボランティア活動についての見識を深める会を開催しました。	①2,368人 ②4回	C	C: 目標水準を達成したためです。	東京2020オリンピック・パラリンピックで醸成されたボランティア機運を維持していくことが求められます。新型コロナウイルス感染症の影響で活動数が減少している今だからこそ、まちだサポーターズ10周年に向けての企画など独自の取り組みを実施することで、会員が積極的に活躍できる機会をつくっていきます。

順位	年度目標設定					中間確認			年度末確認				
	取組項目	計画	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	成果	評価	評価の視点	課題と対応
6	障がい者スポーツの理解促進	—	子どもたちを対象にしたパラバドミントン体験会等を実施し、様々な機会を通じて多くの方に障がい者スポーツへの理解促進を図ります。	障がい者スポーツ関連事業参加人数	2,000人	△	緊急事態宣言の影響により、小学校9校でのパラバドミントン体験会を中止しましたが、実施した2校で計166人が参加しました。	小学校7校計521人に対してパラバドミントン体験会を実施します。1月に市立総合体育館で開催を予定しているパラバドミントン日本選手権に向け、多くの方に観戦してもらえよう周知します。	新型コロナウイルス感染症の影響により小学校7校の体験会とパラバドミントン日本選手権が中止となりましたが、オンライン交流への切り替えを含めた感染症防止対策を行い、小学校7校計516人に対してパラバドミントン体験会を実施しました。また、インドネシアパラバドミントン代表事前キャンプ期間中の公開練習には来場者、オンライン参加者合わせて518人が参加し、パラ射撃代表の水田光夏選手のオンライン壮行会には5つの子どもセンターから約100人が参加しました。北京オリンピック・パラリンピック開幕を記念して実施した町田市ゆかりのパラリンピアンやパラバドミントンについて紹介したイベントスタジオの展示には約900人が来場しました。	2,034人	C	C: 目標水準を達成したためです。	東京2020パラリンピックにより高まったパラスポーツの機運を維持していくことが求められます。パラスポーツやパラアスリートと触れ合う機会を継続して設け、パラスポーツの理解促進につなげます。
7	大会終了後の業務の引継ぎ	—	引継ぎ対象事業やその実施体制を決定し、2021年度中に円滑かつ確実に業務を引き継ぎます。	引継ぎの実施	引継ぎの完了	○	引継ぎ対象事業および引継ぎ先部署を決定しました。引継ぎ先部署の職員が対象事業を視察する等、スムーズな引継ぎに向けた準備を進めました。	対象事業のこれまでの経緯の振り返りや手順の見直しを行い、適宜マニュアルを作成する等、年度末の引継ぎ完了に向けて遺漏なく準備を進めます。	引継ぎ対象事業および引継ぎ先部署を決定し、対象事業のこれまでの経緯や業務の手順をまとめ、引継ぎ先部署との打合せを重ねました。2022年度も円滑に業務を実施できる体制を調えることができました。	引継ぎの完了	C	C: 目標水準を達成したためです。	—

順位	年度目標設定					中間確認			年度末確認				
	取組項目	計画	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	成果	評価	評価の視点	課題と対応
8	事務の効率化	—	課内での協力体制構築による時間外勤務の平準化により、時間外勤務を削減します。	時間外勤務年間360時間を超える職員数	0人	○	9月末時点での時間外勤務時間数は、約127から175時間、平均約152時間です。東京2020大会が終了し、業務量のピークは過ぎたため、年間で360時間を超える職員は出ないことが予想されます。	引き続き課内での協力体制構築による時間外勤務の平準化により、時間外勤務を抑制します。	課内での協力体制構築による時間外勤務の平準化により、年間360時間を超える職員はいませんでした。年間の時間外勤務時間数は約163から232時間、10月1日付けで異動した職員を除く平均は約192時間でした。	0人	C	C:目標水準を達成したためです。	—

部課名		文化スポーツ振興部 国際版画美術館											
課の使命		<ul style="list-style-type: none"> 市民をはじめすべての来館者に対して、優れた美術作品に触れる機会や環境、および学習、創作、発表の機会を効果的に提供し、美術に親しむことの喜びや感動、やすらぎをもたらすことを目指します。 現在の市民はもちろん未来の市民、さらに広く社会一般に対して、貴重な文化財である版画作品の収集・保存を通じて、市民の財産としての版画の価値を未来に伝えるとともに、専門性に裏付けられた版画文化に関する良質な情報発信を行います。 町田市の文化振興および文化・芸術都市としてのブランドイメージの向上に寄与します。 											
実行計画(年度目標)													
順位	取組項目	計画 類型	年度目標設定			中間確認			年度末確認				
			具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	成果	評価	評価の視点	課題と対応
1	文化プログラム事業の推進	重点 事業 プラン	東京2020オリンピック・パラリンピックにむけての文化プログラム事業として、「#映える風景を探して」展と「浮世絵風景画」展を実施するとともに、シャトルバスの運行や関連催事の実施によって、観覧者の確保に努めます。	文化プログラム事業の観覧者数	20,000人	△	「#映える風景を探して」展の観覧者数は4,135人、「浮世絵風景画」展は11,255人、関連イベントの参加者数は840人で、合計16,230人となり目標値に達しませんでした。しかし、「#映える風景を探して」展は56日間の会期のうち、31日間は東京都の緊急事態措置に従い臨時休館となりましたが、1日平均では目標の125人を大きく上回り165人となりました。また、臨時休館中の対応として期間限定でヴァーチャル展示を公開しました。なお、会期中のシャトルバスは3,829人のご利用がありました。	文化プログラム事業に関する取り組みを検証・総括し、今後の展覧会事業に活かす方策を考えていきます。	新型コロナウイルス感染拡大の影響により観覧者数は16,230人と目標に達しませんでした。4月から10月に運行したシャトルバスは4,788人の利用者がありました。	16,230人	D	D:取り組みましたが、成果が不十分であるためです。	引き続き、新型コロナウイルス感染予防対策を十分に行うとともに、安心して来館できる環境を整っていることを積極的にPRします。あわせてシャトルバスを運行して利便性を高めることで、来場者の確保に努めます。
2	SNSによる情報発信の強化	—	新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、自宅で過ごす機会が増えている市民や遠隔地の皆様に向けて、版画について楽しく学べる情報の発信をSNSで行います。また国内外問わず広くアピールを図るため、英語でのインスタグラムを増やします。	①SNS発信回数 ②英語でのインスタグラム発信回数	①300回 ②50回	○	①展覧会の出品作品の紹介や講座・イベントの告知など、ツイッターで120回、インスタグラムで100回の発信を行いました。 ②インスタグラムでの発信は5回でしたが、ユーチューブで英語での展覧会紹介動画を作成、公開しました。	引き続きSNSによる情報発信を積極的に行っていきます。	展覧会および収蔵品等の情報を積極的に発信しました。	①300回 ②50回	C	C:目標水準を達成したためです。	企画展やイベントの案内を中心として、引き続きSNS発信を積極的に行っていきます。

順位	年度目標設定					中間確認			年度末確認				
	取組項目	計画 類型	具体的な活動内容	指標	目標値	進捗 状況	上半期の状況や評価	下半期の予定	1年間の総括	成果	評価	評価の視点	課題と対応
3	収蔵品情報のデータベース化	—	33,000点に及ぶ収蔵品の情報について、データの電子化を段階的に進めていきます。	データ作成件数	6,000件	○	データ作成の計画と役割分担を行い、1,020件を入力しました。	引き続きデータ作成作業を計画的に進めます。	約6,300件を入力しました。	6,300件	C	C:目標水準を達成したためです。	計画的に入力を続けるとともに、入力済みのデータを再確認し、より内容を充実させます。
4	効率的な会議運営	—	課内で定例的に行っている会議について、会議時間を1時間以内とするなど、効率的な会議運営を行います。	定例会議時間の1時間以内終了率	80%	△	9月末時点に実施した計39回の定例会議のうち、1時間以内に終了した会議は67%となり、目標には達しませんでした。	係会議が1時間を超えることが多かったことから、日ごろから係内で情報共有を行い、効率的な会議運営に努めます。	上半期に実施した会議は1時間を超えることが多かったものの、下半期はチャットの活用により、殆どが1時間以内に終わることが出来たため、年間での達成率は80%となり、目標値に達しました。	80%	C	C:目標水準を達成したためです。	今後もチャットや朝礼で情報共有を行いながら、効率的な会議運営に努めます。